



地球ギャラリー vol.09

Zambia

【ザンビア】
文・写真＝飯塚 明夫（写真家）

「隣人カ」 コンパウンドの

軒先で衣服を売ることになった女性（左から2人目）は南アフリカから移住してきた。「何かと隣近所に助けられている」と笑う



市場の衛生状態は決して良いとはいえない。日用品は南アフリカ製と中国製が圧倒的に多い



母親たちの井戸端会議。日常の会話はコミュニティの潤滑油



D.日曜日のミサの準備をするマクソン神父。信者からのさまざまな相談に乗る
E.ミサに来た子どもたち。教会では少年少女の防犯意識の向上にも力を入れる

19年ぶりに訪ねたザンビアの首都ルサカは、南アフリカ共和国など外国の資本が入り、大きな変化を遂げていた。空港からルサカに続く幹線道路沿いには、巨大ショッピングモールが建ち、市内にはファストフードの店が並ぶ。携帯電話は都市生活者の必需品だ。

ルサカは私が青年海外協力隊時代に赴任した地。様変わりした町に少し戸惑いを覚えた私は、コンパウンドを訪ねてみた。コンパウンドとは、大都市郊外に広がる低所得者の居住区で、隊員時代に慣れ親しんだ場所でもある。

ここには、当時と変わらぬ時間と空気が流れていた。隣人同士の助け合いの精神「隣人力」が今も息づく。日々の平和を願いさまざまな人々が、暮らしやすい地域づくりのため

の隣人力を發揮していた。

カウンダ・コンパウンドの神父、マクソン・マムドゥさん（42歳）もその一人。彼は布教活動だけでなく、防犯のために隣組をつくり、夜間パトロールを行っている。隣人同士が協力して泥棒を捕まえたこともあるという。「人間は本来、一つの家族として助け合う生き物。コンパウンドは大きな家族であり、助け合いの精神がある」と話す。

大学生のロドリック・チョンガさん（24歳）は、土曜日の午後、コンパウンドの市民ホールでチェスを教えている。仲間と結成したチェス・クラブ。約50人の会員の中には、10代の少年も多い。「チェスに熱中することで、非行に走る少年を少なくしたい」というのがクラブを作った理由の一つだ。



A. 幹線道路沿いのショッピングモール。新たに数カ所で建設が進んでいる
B. チェスを教えるロドリックさん（左）。照明設備がなく日没とともに教室は終了する
C. 広場でサッカーを楽しむ若者たち。この地域では仕事が少なく生活は不安定だ



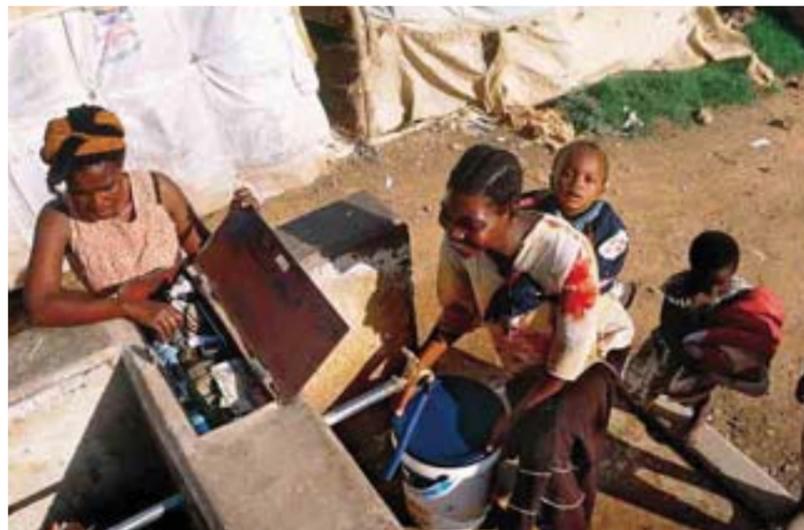
F



H



G



I



水場の子どもたち。水くみは重労働だが、それを担うのは主に女性や子どもたちだ

地球ギャラリー vol.09

- F.コンパウンドの遠景。ルサカ郊外には合わせて24カ所のコンパウンドが広がる
- G.カニヤマ・コンパウンドの治療サポーターの一人(中央)が、結核患者に病状や服薬の仕方などを説明する
- H.医療施設で薬の配布を手伝う治療サポーター
- I.水場を管理する女性(左)。一家族が持ち帰る量は1日20リットルまで

カウンダ・コンパウンドの隣にはウゴンベ・コンパウンドがある。ウゴンベとは、現地語で「牛」の意味。ここは昔、牛の放牧地だったという。私が日本人だと知ると、周りにいた人たちが日本の協力でできた水場に案内してくれた。

56カ所あるウゴンベの水場はすべて管理人付きで、使用料の徴収や掃除など維持管理を行っている。管理人は1週間で次の水場に移動する。長く居ると住民と仲良くなり過ぎ、いろいろな弊害が出てしまうからだ。これは「困った隣人力」の発揮を防ぐ工夫なのだろう。

次に訪ねたカニヤマ・コンパウンドは、人口約20万人、ルサカ最大のコンパウンドだ。ここで日本のNGO、AMDA(アマダ)社会開発機構(AMDA-MINDS)が、2008年よりJICAの草の根技術協力を通じて、結核やエイズ患者の治療を支援している。

この取り組みで重要な役割を担うのが、治療サポーターと呼ばれる地元ボランティア。日ごろから患者宅を訪問し、服薬の手助けや精神面でのケアに努めるなど、感染症と闘う人々の大きな支えとなっている。

ここでも地元民の「隣人力」が遺憾なく発揮されていると実感した。

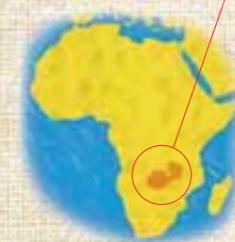
ザンビアはアンゴラに三原流を築し、
南部アフリカを流れるザンベジ川、
ワルズやラフディンクを
楽しむ観光客も多い。



世界三大滝の一つ、ビクトリア・フォールズ。
地元の人からは現地語で
「雷鳴の轟く水煙」と呼ばれている。
1989年、世界遺産登録。



首都：ルサカ
面積：75万2,610km²(日本の約2倍)
人口：1,192万人(2007年)
公用語：英語
宗教：キリスト教徒約80%、そのほかイスラム教、ヒンドゥー教、
伝統宗教
1人当たり国民総所得(GNI)：770ドル(07年)
経路：日本からの直行便はなく、南アフリカ共和国やロンドン
経由が一般的
通貨：ザンビア・クワチャ(ZMK)
1ZMK=約0.02円(09年4月現在)
気候：北部は亜熱帯性気候、南部はサバナ気候に属し、涼しい乾
期(5~8月)、暑い乾期(9~11月)、雨期(12~4月)に分かれる。



世界有数の金銅の産地として知られ、地下に眠る豊富な
金銅資源は、国の経済を支えている。



国内にある19の国立公園と
23の動物保護区には、
アフリカを代表するゾウ、カバ、
キリン、シマウマなど
多くの動物が生息する。

JICAの活動 in ザンビア

安定した経済発展を 後押しするために

2030年までに中所得国入りを目指すザンビア。
JICAは、経済成長と貧困削減を後押しするため、
そのカギとなる産業の多角化や投資環境の整備
など国の基盤強化を支援している。



ハンドポンプの修理方法を
指導。JICAは地方の給水
施設の運営・維持管理体
制の改善にも協力している

投資環境整備の支援では、ザン
ビア開発庁の職員らがマレーシ
アの工業団地を訪問した



アフリカの中でも比較的政・経
済が安定し、民主化が進んでいる
ザンビア。アンゴラやコンゴ民主共和
国、ルワンダなど周辺国の和平活動
を支援すると同時に、主要産業であ
る銅産業や農業を含む産業の多角
化に取り組み、2007年の経済成長
率は6.3%と高い伸びを示している。
しかし、08年末の金融危機の影響で、
銅の価格は最高値の3分の1にまで
落ち込み、経済成長率は5.8%に後
退している。

JICAはこうした状況の中で、国際
価格が変動しやすい鉱業に依存し過
ぎず、ザンビアがより安定的に成長し
ていくための支援を行っている。

産業の多角化を後押しする支援で

は、産業の集積地であり南部アフリカ
地域の結節点となる首都ルサカの交
通や上下水道の整備など都市開発
を計画的に進めるための調査を実施。
また、電化率がわずか3%という状況
に置かれている地方の人々に電気を
供給するために、円借款を通じて配
電網を整備するとともに、小水力発
電設備の導入を支援していく計画に
なっている。このザンビアに対する円
借款は、実に17年ぶりのことだ。

さらに、外国投資をもとに工業化に
成功し、目覚ましい発展を遂げたマレ
ーシアと協力して投資環境整備に取り
組んだ。その結果、マレーシアやイ
ンドによる投資が決定されつつある。
加えて、自立した国づくり不可欠な

人材の育成や制度構築のため、地
方行政の能力強化も図っている。

一方で、いまだザンビアには農村
部を中心に貧困層が多い。JICAは、
農業普及員を育成・支援し、開発から
取り残されている小農の自立を促す
ため、農村開発モデルの策定に協力
している。



農村開発モデル策定支援には、アジアでの開発
経験が生かされている

- 【作り方】
1. ホウレンソウを千切りか粗めのみじん切りにして塩ゆで。
 2. 玉ネギとトマトを1センチ角に切る。
 3. 洗皮を除いたピーナツを粉末状に。
 4. 1の中に2と3、塩、重曹を入れて15分ほどゆでる。
 5. 木べらでかき混ぜたら完成。
- ☆どろっとしたピーナツが口あたり良く、野菜嫌いな人にもオススメ。シマはもちろんだが、ご飯と一緒に、また酒のさかなとしても相性がいい。
- ヘカンドーロナンシャーバ
- 【材料】
サツマイモ／ピーナツバター／塩少々／重曹少々
- 【作り方】
1. サツマイモの皮をむき、塩ゆでする。
 2. ゆで上がったら粉ふき状にし、少量の水で溶いたピーナツバターをかける。
 3. 鍋の中で半マッシュ状態になる程度に混ぜて出来上がり。



シマの製造風景。トウモロ
コシの粉に水を加え、火にか
けながら練り上げれば完成
だ。練り上げるには結構な
力がいる

☆サツマイモの代わりにドライコーンを使
ってもOK。ぜひ一度お試しを！

文・写真：佐々木信江(青年海外協力隊)



フィサン



カンドーロナンシャーバ

ザンビア料理
シマの付け合わせは
グラントナツツで！